

3. 取組み事例（1）対象者別事例
③職域－警察（木更津市）

③ 職域（警察）

市町村名	木更津市
------	------

取組みの具体的内容

講座の基本情報

受講対象者	木更津警察署職員		
受講人数	72名		
講座開催時間	60分（10:35～11:35）	開催場所	木更津警察署内 （4F 大講堂）
開催メイト数	2名	実施企画	地域包括支援センター
使用教材	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症サポーター養成講座標準テキスト <input type="checkbox"/> 認知症サポーター養成講座中学生用副読本 <input type="checkbox"/> 認知症サポーター養成講座小学生用副読本 <input checked="" type="checkbox"/> 100万人キャラバンDVD		
独自の取組み	パワーポイント使用、指遊び、クイズ、地域包括支援センターパンフレット配布		

※■は使用教材。

カリキュラム

- 定例会議の1時間での実施。
- 一通りの「認知症サポーターに伝えたいこと」を、盛り込みつつ警官だからこそ知りたいこと、役立つことを盛り込んだ。
- 市内の4つの地域包括支援センター職員から口頭での紹介と各包括のパンフレットを配布。

工夫点・特に気を付けていること

- 定例会議の1時間をいただく形だったため、1時間以内にすべてを完了させるよう、地域包括支援センター内でリハーサルを何度も実施。
- テキストの文字を追うだけにならないように、キャンペーンビデオやパワーポイントを使用し、映像としてわかりやすく伝えることを心掛けた。
- 一通りの認知症サポーターに伝えたいことは、盛り込みつつ警官だからこそ知りたいこと、役立つことを盛り込んだ。
- 聞くだけでなく指遊びやクイズなども取り入れ参加型で楽しんでいただけるように配慮した。
- どこにも繋がっていない認知症の方の最初に関わるのが「徘徊」→「迷子」→「警察」ということも多いと思うので、認知症の方の相談機関でもある地域包括支援センターの紹介とネットワークづくりとしての機会にもなるように、市内の4つの包括職員から口頭での紹介と各包括のパンフレットを配布。
- 警察の窓口になってくださった方が、事前に「特に制服の警官は、できるだけ講座に参加するように」と声掛けをしてくださった。

取組みの背景、講座開催のきっかけ

当地域包括支援センター担当地域内の、2～3年前から時々迷子になってしまう高齢者が、特にH24年8月に1ヶ月で8回ほど警察に相談があり、市の広報を使って検索したことがあった（高齢者世帯の夫と二人暮らしの方で、いつも夫から検索の依頼があり、介護保険サービスの利用もないままに一生懸命夫が世話をしていたが、本人の認知症状進行の速度に間に合っていないようだった。）。

同じような高齢者の迷子が市内のあちこちにあり、関係機関の一つとして警察の視点に合った認知症サポーター養成講座をし、今後の業務や活動に参考にしてもらえればと木更津警察署の（いつも関わる）生活安全課の担当者に紹介させてもらい、講座開催が実現した。

取組みの具体的効果、成果

今回初めて、指遊び(認知症の方はうまくできない)とパワーポイントを取り入れてみた。好評だった。

講座の終了後、別の警察署から転勤してこられた方から『認知症の徘徊の方の相談先がわかってよかった。どこに相談したらよいのかわからなかった。今日の講座に参加してよかった』とあり、全体に好評だった。

3. 取組み事例（1）対象者別事例
③職域－警察（木更津市）

取組み上の課題点、問題点、解決策

木更津警察署は、定例の会議は勤務職員の半分の人数で 2 回開催しているとのこと。今回そのうちの 1 回分で開催させていただいた。業務の都合もあり大変だとは思いますが、今後もう半分の方たちに開催したい。働きかけをしていきたい。

問い合わせ先

【事務局】

木更津市高齢者福祉課支援担当

TEL：0438-23-2695 / FAX：0438-23-7181